

# 三世代にわたる誠実な仕事への取り組み。そして時代に応じた変化と改革の勇気が企業存続と繁栄への鍵。

鹿屋山坂運送有限会社（鹿屋支部）



取締役会長 坂元 勇さん 代表取締役 福岡 周一さん

鹿屋山坂運送有限会社

本社／鹿屋市東原町5964-56  
取締役会長／坂元 勇  
代表取締役／福岡 周一  
グループ従業員数／200名  
保有車両／62台



信条は「誠実」と「努力」。しなやかに世代のバトンをつなぎ、大隅の地方色を生かした新規事業展開を繰り広げる山坂グループ。そのアイデア源は、日々の情報収集。



第二次大戦後、地区の同業者数名が共同で興した「山坂トラック」で運転手を務めていた父を持つ坂元勇氏が戦後、経営を引き継いだ。折しも戦後の復興期、鹿屋の飛行場再建において鹿島建設の下請け事業にトラック2台で参入。18歳で大型免許を取得していた坂元氏も、父や叔父らと共にトラック輸送に携わった。実直な仕事ぶりが認められ、鹿島のバックアップのもと昭和37年、県内の運送会社として初の法人化が実現した。「とにかくがむしゃらに働いてきました。会社になったときは、それは嬉しかった」。座右の銘は「誠実」という坂元氏。訥々とした語りと温和な笑顔に、その信条通りの人柄がうかがえる。飛行場建設が終わる頃、宮崎の一ノ瀬ダム工事、コンクリート二次製品の運送、飼料配送など、堅実な仕事に恵まれてきた。

惜しめない努力と積み重ねた信用により、事業を順調に伸ばしてきたものの、後継者不在が大きな問題だったが、長女の夫である福岡氏には、日ごろから事業継承への覚悟もあ

った。「企業は存続させていく責務がある」との理念を胸に、昭和61年帰郷、経営に加わった。金属専門の研究者で、飛行機の金属疲労などの調査を専門にしていた福岡氏は、もちろん大型車のハンドルを握った経験はなかった。坂元氏の指導のもと大型車の免許を取り、車の構造・修理などを勉強をする一方、時代に先駆け、専門職で使っていたパソコンを会社に導入、経理、配車、納品などをすべてパソコンで管理するシステムを作り上げた。そして平成3年、坂元氏は会長に就任、社長職を福岡氏に譲った。「車のことを何も知らないから事業ができないのでは、というのはまったく杞憂でした。逆に、車の事しか知らなかったら生き残れない時代に来ていたのです。いい時に世代交代ができました」と坂元会長。福岡社長は飼料の輸送につながる新事業を次々に開拓し、食鳥の輸送、さらにブロイラー生産部門から加工部門など、関連会社を設立するとともに、新規事業を立ち上げてきた。大隅半島で第一号の人材派遣業の免許

も取得した。

そして現在は、生産・出荷・物流・加工の流れがしっかりと形成されており、それに合わせた輸送体制が確立されている。大隅半島一円に年間19万トンを超える飼料輸送をはじめ、日々15万羽の雛輸送や、年間3,500万羽を超えるブロイラーの捕鳥から出荷までを手掛ける生鳥輸送、出荷後の鶏糞搬出作業と水洗作業、年間5万トンを超える鶏糞及び産廃輸送を行っている。産廃輸送に関しては、県内でも先駆けて電子マニフェストシステムの導入を行い、ただ単に物を運ぶだけでなく、関係する付帯作業までをトータルでサポートしている。又それを可能にするトータルシステムドライバーの育成を目指す。特に飼料輸送では、農場から直で発注を受け、自動配送システムにより瞬時のうちに配送が決定し、飼料会社のサーバーに自動的に取り込まれた在庫・品質・請求管理の土台となっている。

いま山坂グループは4つの会社、従業員200名を擁するグループ企業に成長した。「待つて

いるだけでなく、自分で仕事を作るという考えで進んできました。常に5年後、10年後を見据えて新しいビジョンをうち立てていかないと企業は存続しない」と福岡社長。そのためには、情報収集を怠ってはいけないと語る。インターネットなどを活用して情報収集することで、新しい着想を得るのだ。

福岡社長の信条は「努力」。毎年、企業の努力目標を掲げる。今年の目標は「意識改革」。毎月一回、安全運転マナー委員会を開き、安全・品質・原価の三本柱について指導を徹底し、各人の売り上げ、燃費などを明示してきた。一人ひとりの「意識改革」は高まってきていると手ごたえを感じている。平成19年の目標は一步進んで「自己改革」。意識を行動に移す時期と考えている。刻々と変化する時代にしなやかに対応し、改革する勇気が、企業を成長へと導く原動力だ。



青のボディに赤いラインの車両



安全運転マナー委員会の様子



グループ企業でのブロイラーの生産・出荷・物流・加工の流れが形成されている